

# CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

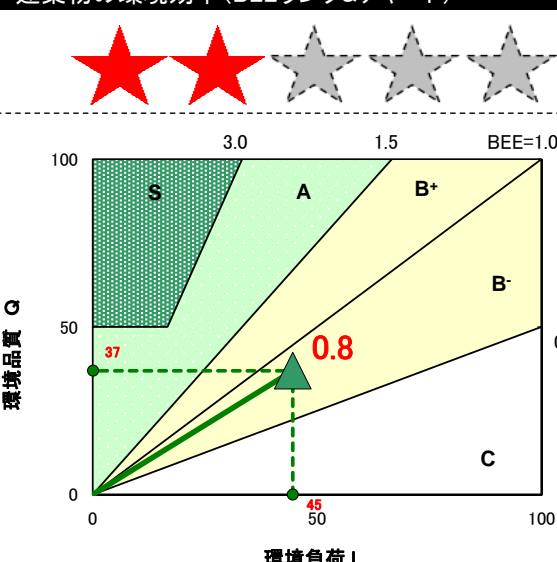
■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	(仮称)TRIAL新八代駅前店	階数	地上1F	
建設地	熊本県八代市上日置町字八坪4478	構造	S造	
用途地域	都市計画区域内,指定なし	平均居住人員	0人	
気候区分	7地域	年間使用時間	0時間/年	
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年12月28日	
敷地面積	19,106 m <sup>2</sup>	作成者	園田	
建築面積	5,246 m <sup>2</sup>	確認日	2018年1月5日	
延床面積	5,170 m <sup>2</sup>	確認者	吉永	



外観図の貼り付けは、  
【外観図】シートへ貼り付けてください。

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

**BEE = 0.8**

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)


★★★★★

排出率

**80%**

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

**66**

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

**72.2**

**62.5**

**55.0**

**68.2**

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)TRIAL新八代駅前店	階数	地上1F
建設地	熊本県八代市上日置町字八坪4478	構造	S造
用途地域	都市計画区域内,指定なし	平均居住人員	300 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年12月28日
敷地面積	19,106 m <sup>2</sup>	作成者	園田
建築面積	5,246 m <sup>2</sup>	確認日	2018年1月5日
延床面積	5,170 m <sup>2</sup>	確認者	吉永



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

### 3 設計上の配慮事項

#### 重点事項総合評価

評価点 = 66

重点事項1: 温室効果ガス排出削減の推進	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現
評価点 = 72.2	評価点 = 68.2
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全	重点事項4: 循環型社会の実現
評価点 = 55.0	評価点 = 68.2

#### 重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)TRIAL新八代駅前店**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-		<b>2.5</b>
<b>1 音環境</b>				<b>1.8</b>	0.15		-		<b>1.8</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40		-		
1.2 遮音				<b>1.0</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能				<b>1.0</b>	1.00		-		
2 界壁遮音性能					-		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20		-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.0</b>	0.35		-		<b>2.0</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 室温				3.0	0.50		-		
2 外皮性能				3.0	0.17		-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.33		-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20		-		
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30		-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.0</b>	0.25		-		<b>3.0</b>
3.1 屋光利用				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 屋光率					-		-		
2 方位別開口					-		-		
3 屋光利用設備				<b>3.0</b>	1.00		-		
3.2 グレア対策					-		-		
1 屋光制御					-		-		
3.3 照度					-		-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.50		-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.2</b>	0.25		-		<b>3.2</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質		使用する建築材料は全てF☆☆☆☆とする		<b>4.0</b>	1.00		-		
4.2 換気				<b>2.0</b>	0.30		-		
1 換気量				<b>3.0</b>	0.50		-		
2 自然換気性能					-		-		
3 取り入れ外気への配慮				<b>1.0</b>	0.50		-		
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>		-		<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.3</b>	0.40		-		<b>3.3</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性					-		-		
2 高度情報通信設備対応					-		-		
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				<b>3.6</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観		平均天井高: 5.42m		5.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33		-		
3 内装計画		3項目に該当		<b>4.0</b>	0.33		-		
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		①③⑤⑥⑩⑪に該当		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.8</b>	0.30		-		<b>2.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>2.8</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>2.4</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				1.0	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:4.871m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.06	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		1.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>1.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>1.0</b>	0.20	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.76	<b>3.8</b>	0.50	-	-	<b>3.8</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		節水コマ、省水型機器	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.8</b>	0.60	-	-	<b>2.8</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.11	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.22	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.22	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		-	1.0	0.22	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			-	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		躯体と仕上げ材が容易に分別可能 内装材と設備が錯綜せず、容易	5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	<b>3.7</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材の使用なし	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		省エネ設備の導入	<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		燃焼機器の使用なし(電気温水器)	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車・車・荷捌き車両の駐車スペース確保、駐車場導入路への配慮	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン、広告物照明の取扱いの過半を満足	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

不特定多数の方が利用する施設であるため、安全に配慮した設計を目指している。

### Q1 室内環境

・ 建築材料は全てF☆☆☆☆建材を使用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避した。

### Q2 サービス性能

・ 売場の天井高を高くすることで開放的な空間とした。

### Q3 室外環境（敷地内）

建物高さ、壁面位置、外装・屋根・庇・開口部・塀等の形状や色彩において、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。

### LR1 エネルギー

・ 高効率の機器を採用し省エネルギーに努めた。

### LR2 資源・マテリアル

・ 断熱材はすべてノンフロンを採用。

### LR3 敷地外環境

・ 適切な数の駐車駐輪スペースを計画し、出入口附近での車両の軌跡検討を行い、周辺の交通負荷軽減に配慮した。

### その他

**熊本県重点評価結果スコアシート** 実施設計段階

建物名称 **(仮称) TRIAL新八代駅前店**

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点		66
重点事項					評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>					72.2	0.40	28.88
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05				
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05				
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.05				
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	1.0	0.15				
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20				
LR1-3	設備システムの高効率化	3.8	0.30				
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10				
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10				
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>					62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25				
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25				
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15				
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20				
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15				
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>					55	0.20	11.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20				
LR2-1.1	節水	4.0	0.30				
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20				
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.30				
<b>④ 循環型社会の実現</b>					68.2	0.20	13.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.8	0.30				
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30				
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10				
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15				
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15				

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
※重み係数の総和は、「1」であること。  
※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数